
ありがとう

允君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう

【Nコード】

N1142D

【作者名】

允君

【あらすじ】

清水家に色んなトラブルが襲い掛かるがその度に家族の絆が深まる物語

1・プロローグ

僕の名前は清水和哉

中学3年生

僕の家族は5人家族と犬を1匹で暮らしている

お父さんは建築士である

と言っても偉い人ではなくただの平社員

ただど家族の事にはうるさいほど関わったり、料理にはこだわっているが心配性

僕がたまたま学校行事で夜遅くまで残ったときも電話してきたり迎えに来たこともあった

そんなお父さんがうざいと思ったことはしょっちゅうだ

お母さんは3年前僕が小学6年の時に病気で死んでしまった

お姉ちゃんは今、電車で4時間かかる場所で看護学校に通っている
ちなみに名前は栞

年は21歳

今付き合っている彼と同居している

お兄ちゃんの名前悠太

20歳になるというのに職にも就かず毎日家でゴロゴロしているか
友達と遊び歩いているダメ兄だ

犬の名前はゴン

ゴンは小さい頃公園で拾った

つまり今一緒に暮らしているのはお父さんと僕とお兄ちゃん、そしてゴンだ

これから始まるのはこんな家族の物語である

2005年6月20日

いつものように朝早くお父さんが僕達を起こす

「おい、もう7時だぞ。起きなさい」カーテンを開けながら起こす

同様にお兄ちゃんも起こす
しばらくして食卓に集まる

「いつまで寝てるんだ？学校遅れるぞ。送ろうか？」とお父さんが
僕に言った

僕が

「いいよ。はずかしいよ。それだったら遅刻して説教くらった方が
まだマシだよ」と言った

兄も

「そりゃそうだ。ってか親父はどんだけ過保護なんだよ？」と言った
お父さんが

「なんだ？その言い方はだいたいおまえらは・・・」

またいつものように説教を言う

僕が

「もうこんな時間だ。じゃあ行つてきます」と逃げるように出てい
った

残った兄をみて

「悠太は今日も遊ぶのか！早く働け」と言つて仕事に出かけた

そんな平凡な生活に僕の学校では事件が起こった2005年6月2
0日

いつものように朝早くお父さんが僕達を起こす

「おい、もう7時だぞ。起きなさい」カーテンを開けながら起こす
同様にお兄ちゃんも起こす

しばらくして食卓に集まる

「いつまで寝てるんだ？学校遅れるぞ。送ろうか？」とお父さんが
僕に言った

僕が

「いいよ。はずかしいよ。それだったら遅刻して説教くらった方が
まだマシだよ」と言った

兄も

「そりゃそうだ。ってか親父はどんだけ過保護なんだよ？」と言った

お父さんが

「なんだ？その言い方はだいたいおまえらは・・・」

またいつものように説教を言う

僕が

「もうこんな時間だ。じゃあ行つてきます」と逃げるように出ていった

残った兄をみて

「悠太は今日も遊ぶのか！早く働け」と言つて仕事に出かけた
そんな平凡な生活に僕の学校では事件が起こった

2・いじめ

和哉が学校に登校する途中ある現場を見てしまった

それは同じクラスの三浦剛が不良3人組にお金を巻き上げている処を和哉は困った顔で（弱ったな）。あの不良組恐いしな。それに剛とはあまり仲よくないしな。と思いみて見ぬふりをしその場を立ち去った

和哉は一日中その事が気に掛けている

実は剛は色んな所でもいじめにあっている

先生もそれを知っているが助けもせずむしろ加害者でもある

例えば授業中では剛の間違いのノートをコピーし生徒皆にどうやって間違ったかを教えるふりして間違いを馬鹿にしている

しかもその時言った言葉が

「ちゃんと先生の話聞いていないからこうなるんだ。それに家で復習もしていないしくだらんことばっかやっているからだ」と頭を教科書で叩きながら言う

不良組は掃除の時間楽なことは不良組がやって嫌なことは全部剛にやらせている

しまいにわざとバケツの水こぼして

それを見ていたやさしい女の子は

「手伝うよ」と言い掃除を始めた

女の子の名前は千葉和美

和哉の片思いの人である

実は和哉もその現場を見ていたが手伝わなかった

和美は和哉が見ていたのを知っている

学校帰り和美が怒りながら和哉を呼び止めた

「なんでみて見ぬふりをしたの？」

和哉は言い返せなかった

「私の知っている和哉は優しい心を持ってた人だよ」

和哉は言う

「変に助けたら標的が僕になるだろ！」

和美はあきれて言う

「助ける事は変なことなんだ？最低だね」と言い立ち去った

和哉はシヨックを隠しきれない

次の日の朝昨日の事が引きずっている

そのせいで頭が回らない

お父さんが何を言っても聞こえない

そして学校に登校した

家ではまだお父さんが掃除している

和哉の部屋を掃除している時宿題のノートを忘れている事に気付き

学校に届けに行った

学校では気まずい雰囲気になっている

不良組は剛をトイレに呼び出し閉じ込めている

和哉は何も知らずトイレに行こうとしたとき不良組と遭遇し不良組

が和哉に

「一緒にいじめないか？気分転換になるぞ」と言った和哉は少し黙
り立ち去ろうとしたとき目の前に忘れ物を届けに来たお父さんが立
って見ていた

お父さんがトイレに入って来てノートを床に落とす

僕がノートを拾おうとした時お父さんが僕を蹴り倒した

僕はトイレに倒れ

「何するんだよ」と言った

お父さんが睨んで

「いじめられている気分が少しでもわかったか？」と言い僕をもう
一度もつと強く蹴って出ていった

3・仲直り

家に帰ったらやはりお父さんは怖い顔で僕を睨み

「ここに正座しろ」と言っただ

従うまま僕は座る

「トイレでのやりとり一部始終見させてもらった」

「・・・」

「お父さんは情けなくなつたよ」とため息を吐く

「しょうがなかったんだよ」

「なにがしょうがなかったんだ？」

「だって相手3人で強いし反抗したら何されるかわからないし。もちろん一緒にいじめるつもりはなかったけど」

「相手が怖いから、仕返しされるのが怖いから逃げたのか？」と聞かれ

和哉はうなづく

「あのな和哉直接いじめてなくてもみて見ぬふりも立派ないじめなんだぞ！」

「・・・」

「逆の立場でおまえがいじめにあつていじめられていた子がおまえでああいう風にされたらおまえ嫌だろ？悲しいだろ？それが大親友な人だつたら裏切られた気持ちだろ？そんな事考えたことあるか？いじめられてた子も絶対そう思っているぞ！おまえこんなことしたら友達なくなるぞ」

和哉は泣く

そこにいた兄悠太が口を開いた

「和哉、実は俺、和哉と同じくらいの時にいじめられていた子が自殺してしまつたんだ」

「？」

「そいつ俺の、中学に入って初めての友達だったんだよ。あいつい

じめられてた事知らなくてよー、親にも言えなかったんだろーなー、あいつが死ぬ前の日あいつから電話きてよーその時面倒くさくつてよー相談あるつつつてもごめん用事あるからって聞かないで切っちゃったんだ。そしたら翌日遺書書いて飛び降り自殺したんだ。死ぬ直前さよならとメールきて」

涙ぐむ悠太

「今思えば俺が最後の助けだったんだよ。俺はあいつを救うことができなかった。半分俺が殺したようなもんだ。」

号泣する悠太

「・・・わかった。もういい」お父さんは悠太の肩を叩きながら言う

「悠太の言っている意味分かるか？一つ間違えれば命がなくなるんだぞ。悠太は・・・悠太は・・・」

「お父さんごめんなさい。明日剛に謝る。そして一緒に不良に立ち向かう。そして・・・」泣きながら言う

翌日和哉は昨日のこと剛に謝った

そして不良組とも立ち向かった

それを見た和美は

「勇氣あるじゃん。見直したよ」と和哉に言った

和哉は照れた

その後先生にも立ち向かいに行こうとしたとき

「ちよっと待てや」の声と同時に不良組が和哉を取り囲んだ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1142d/>

ありがとう

2010年11月19日08時21分発行